

ギリシヤ問題で揺れるEUの現状と今後

慶應義塾大学法科大学院教授 庄司 克宏

- * モネ方式の限界
- * ギリシヤの何が問題なのか
- * 質的にも限界を迎えたEU
- * 加盟の意思が問われるイギリス
- * EU統合の三角形モデル
- * アラカルト欧州と2速度式欧州という解決策
- * イギリスの立ち位置はアラカルト欧州
- * 独仏は2速度式欧州を重視
- * 重要性増す独仏関係の再構築
- * 各国の国政選挙で変わるEUへの姿勢



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は、慶應義塾大学の庄司先生に来ていただきました。テーマはEUの現状と見通しというところでございます。

この経済倶楽部に庄司先生は初めてでございますが、以前は、庄司先生の先生に当たられる田中俊郎先生にここでEUのお話をしていたいただきました。英米系で研究された方のEUのお話というのは、ちょっと見方が偏っておりますので、私どもも田中先生のお話はいへん貴重で、皆様にも評判がよかったわけでございます。

庄司先生は、ベルギー、ケンブリッジ、それからフィレンツェで勉強され、横浜国大を経て、今、慶應で教授をされておられます。NHK等でEUの問題が少し混み入ったときにお目にと

めていただいた方もいらっしゃるかと思います。今日は私どもも十分準備ができなくて、本を売ることはできないんですけれども、岩波書店から新書等も出ておりますので、ぜひご興味がある方はお買い求めいただけたらと思います。ギリシヤ問題等も最後のところまで来ております。皆さんもご興味がおりかと思っております。今日はじっくり庄司先生のお話を伺いたいと思っております。

それではよろしくお願いいたします。（拍手）
庄司 ただいまご紹介にあずかりました慶應義塾大学の庄司でございます。本日はこのような機会を与えていただき、本当にありがとうございます。光栄に思っております。

私の今日のテーマは「ギリシヤ問題で揺れる